お年寄りの生きがいを考える

いま、百人のうち九人が六十五才以上のお年寄り――これが三十四年後の昭和九十年には十八人と二倍に増えると予測されています。

三十四年後に六十五才になる人、つまりお年寄りの仲間入りをするのは、いま働き盛りの三十一才。よくいわれる高令者問題というのは、なにもお年寄りだけの問題ではなく、若い人達のやがて直面しなければならないテーマであり、そして社会全体の課題でもあるのです。同時に、わが国人口の高令化は諸外国に例を見ないテンポと規模で進むことも、合せて考えておかなければならない問題です。

九月十五日は「敬老の日」また、この日から一週間は「老人福祉週間」です。

人生に定年なし――この機会に老人の生きがいとは、よき老後とは、について考えてみましょう。

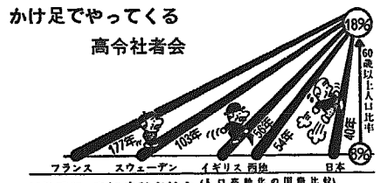
生きがいを求め つねになにかを！

よき老後とは――

「まず健康で、暮しに困らなくて、グチをいわなくてすむ、生きがいのある生活がおくれること」と、誰もが口を揃えます。

衣・食・住だけでなく、医・職それにプラス生きがいが保証された暮しこそ、よき老後ということになります。経済面での安定と丈夫な体、そして生きがい――お年寄りが自立するためには、この三つが不可欠といえるでしょう。

総理府統計局の「老年人口の現況（昭55年）によりますと、六十五才以上の方が〝職に就きたい〟と思う理由としてあげているのは、次のようなものです。



生活をより豊かにしたい　29%
生活費を得たい　17%
余暇ができた　14%
知識や技能を生かしたい　8%

こうした回答からもわかるように職を求めることによって日々の生活を充実させ、これまでに身につけた知識や技術を社会に役立てたいという積極的な意欲がうかがえます。

熟年し「老いる」のでなく「熟す」。この言葉が、お年寄りの心境を端的に物語っているといえないでしょうか。

独自の創意で生きがいをつかむ

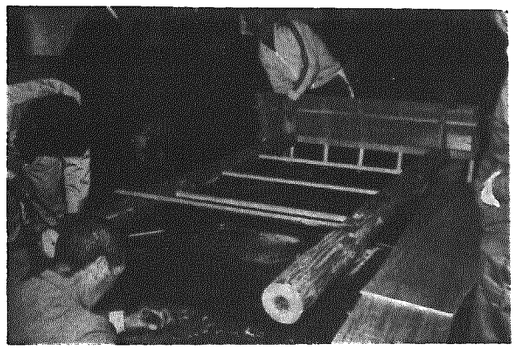
―藤山・駒込老人クラブ―

藤山・駒込地区は、明るく豊かな地域を築くため村づくりを中心に、地区の課題と一体的に取り組み、色々な活動を行なっていますが、老人の生きがい対策も大事な課題として取り上げられ、昨年から地区独特の生きがい事業が始められました。

この生きがい事業は、竹細工による花筒作りを手始めに今年は袖垣作りに取り組んでおり、今年も農業祭に展示し即売を試みたいと大いに意欲をみせています。

この地区の生きがい事業は地区の発想と、身近な素材を活用することから始められたもので、とかく老人対策が画一化、マンネリ化しているときだけに、お金もかからず老人クラブの皆さんは大変喜んでいます。

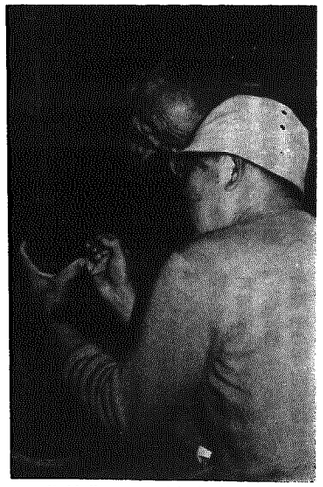
竹細工を始めてからというもの、暇をもて余すものはいなくなり、お互いに協力し合い、また批判し合ったり、四方八方話しに花を咲かせるなど、一緒に集って話し合いのできるのが何よりも張り合いだといっています。一方、老人婦人部も私たちも何かせねば、何がよいか、と目下のところ関係者は模索中、とのことです。


大勢の智恵と和で着々と袖垣の形が

婦人バレーボール大会 出場チーム募集

日時　九月二十日（日）
会場　横小体育館
資格　村内在住又は勤務する者で25才以上の女性。既婚女性であれば年令を問わない
試合方法　九人制、リーグ戦
申込　公民館に用意してある所定の用紙で申込んで下さい
申込〆切日　九月十五日（必着）
その他　九人そろわない場合公民館へ連絡下さい

人生に定年なし


花筒作りに取り組む老人

老人福祉アンケート調査から

待たれる 生きがい対策の推進

昨年の九月、新潟県は県政モニターから「老人福祉」のテーマで、アンケート調査を行ないました。

この調査の目的は、高令化社会が急速に近づいており、老人福祉対策の必要性はいうまでもありません。そこで県民の皆さんが、老人福祉、老人の生きがい及び老人医療などについて、どのような対策を望んでいるか、などの意見を聞き今後の参考にするためとされています。

調査項目は「中年、高年の年令的意識」「老後の生きがい」など十問が設定されていますが、今回は紙面の関係もありその中から二、三を紹介します。

⊙高令化社会における問題点（三点採択式）

(1)暮らし向き　19・8%
(2)病気と医療　59・4%
(3)中高年の就職　42・6%
(4)公的年金の支給水準　50・5%
(5)老人ホームなどの整備　7・9%
(6)税金の負担　30・7%
(7)家族との同居　29・7%
(8)生きがい　26・7%

高令化社会の問題点としては、「病気と医療」が五九・四%で最も多く、次いで「公的年金支給水準」「中高年の就職」の順で多くなっています。

⊙老後の生活への不安

(1)非常に不安だ　1・0%
(2)ある程度不安だ　29・7%
(3)あまり不安でない　37・6%
(4)全く不安でない　13・9%
(5)考えたことがない　13・9%
(6)わからない　2・0%
(7)その他　2・0%

老後の生活への不安については、「あまり不安でない」とする人が三七・六%で最も多く、次いで「ある程度不安だ」の順で、「あまり不安でない」と「全く不安でない」を合せた〝不安でない〟とする人の方が〝不安だ〟（(1)(2)）とする人より多くなっています。

⊙老後の生活の過し方

(1)子供夫婦と同居した方がよい　57・4%
(2)子供夫婦と別居した方がよい　3・0%
(3)元気なうちは別居、身体が弱ったら子供夫婦と同居するのがよい　16・8%
(4)老人ホーム等施設に入った方がよい　―
(5)一概にいえない　21・8%
(6)わからない　1・0%

老後の生活の過し方としては、「子供夫婦と同居した方がよい」とする人が五七・四%で最も多く、次いで「一概にいえない」、「元気なうちは別居、身体が弱ったら同居するのがよい」順のとなっています。

⊙国や県及び市町村への要望（三点採択式）

(1)老人用居室のある住宅の奨励策　49・5%
(2)老人ホームの増設（特養ホーム含む）　36・6%
(3)老人の世話をする家庭奉仕員　40・6%
(4)老人医療費の無料化年令の引き下げ　28・7%
(5)身体不自由な老人の機能回復施設の増設　43・6%
(6)老人の生きがい対策の推進　78・2%
(7)わからない　1・0%
(8)その他　3・0%

老後を安心して暮すための国や県及び市町村の要望は、「老人の生きがい対策の推進」が七八・二%で最も多く、次いで「老人用居室のある住宅の奨励策」「身体の不自由な老人の機能回復施設の増設」の順となっています。

⊙老後の生きがい（三点採択式）

(1)趣味・余暇を楽しむ　92・1%
(2)社会奉仕　40・6%
(3)信仰　8・9%
(4)家族との団らん　65・3%
(5)友人・隣人とのつきあい　64・4%
(6)わからない　3・0%
(7)その他　2・0%

老後の生きがいについては「趣味・余暇を楽しむ」とする人が九十二・一%で最も多く、次いで「家族との団らん」、「友人・隣人とのつきあい」の順となっています。

村の長寿者（90才以上）

上下	海杉	92	ノテ
上上	沢小	91	ヒミ
上山	二本木	91	野川
上海	小杉	90	清中
海	沢沢	90	残間
焼	焼	90	伊藤
佐	藤	90	佐藤

※年令、9月15日現在

人権相談

◎会場…木津分館
◎日時…9月28日
午前10時～午後3時

9月保健衛生業務予定

日	曜	時間	内容	対象者	会場	対象
11日	金	午後6.30受付	新婚学級	1年未満の新婚者で婚未受講者の者及び婚約者	村越公民館	全村
17日	木	午後1.30	歯科検診	53年2月3月4月、54年12月55年1月2生れ	〃	〃
22日	火	午後1.30	乳児検診	55年9月生れ 56年2月6日生れ	〃	〃
28日	月	午前9.30	離乳食講習会	56年4月5日生れ	〃	〃

第24回 俳句作品公募

◎句題
。花野（秋野・秋効）
。秋の燈（秋灯）
。豆干す（大豆引く、新小豆、豇豆干す）
―三題通じて六句―
◎締切　九月末日
◎提出先　横越村公民館